



# レポート H30年 7月

## 第11回うじ井戸端会議を開催しました！

平成30年度の第1回となる「うじ井戸端会議」を7月19日に開催しました！！平成30年度の第1回目は「防災」をテーマに、地区まちづくり協議会の方々やまちづくりマイスター、その他まちづくりに興味のある方々に参加していただきました！井戸端会議開催前の6月には宇治市でも震度5を超える地震が発生し、7月上旬には西日本で豪雨災害が発生したこともあり、身近な話題として防災に対する意識の向上や、地域での取組みについて存分に語り合っていました。

今回もワークショップを行い、防災に関する多くの課題や解決策について話し合われました。各班で出た意見は裏面にまとめておりますので、是非ご覧下さい！！

## 災害時は、以下のこともお気をつけ下さい！！

- ・「通電火災」(地震などに伴う停電が復旧し、通電が再開される際に発生する火災)  
⇒ ガスの元栓を閉める。ブレーカーを落とす等、火災の元となる部分に気をつけましょう。
- ・「水害時の足元確認」  
⇒ 水面下には、マンホールや側溝などの危険な場所があります。長い棒を杖代わりにするなどして足元を確認しながら歩きましょう。  
⇒ 動きやすく安全な服装で避難しましょう。ヘルメットや防災頭巾で頭を保護し、靴は運動靴を。長靴、裸足はNGです。



## 【1班】

- ・天ヶ瀬ダムの老朽化が不安に感じる。
- ・土砂災害ハザードマップの対象を減らす。
- ・町内会、自治会の取り組みが弱い。もっと意識を高める。
- ・高齢者に対する災害対応が出来ていないと思う。



## 【2班】

- ・南陵町ではドアノブに目印になるものをぶら下げ、「避難した」ということを知らせる等の検討を行っている。
- ・自宅の両隣 2～3軒の方と連携を取るようしておく。
- ・災害時の対応を行う町内の組織票（リスト）があると良い。



## 【3班】

- ・避難訓練を年2回程行い、災害への意識が薄れないようにする。
- ・「自分の命は自分で守る」という気持ちを普段から持つ。
- ・災害時の水の確保を事前しておく。
- ・今後は、市と住民の連携が欠かせない。



## 【4班】

- ・実際に災害を体験すると、防災の考え方が変わってくる。
- ・災害避難時は少人数グループで避難する。避難場所もあらかじめ決めておくと良い。
- ・消火栓の使い方を知っておく。
- ・若者の防災に関する意識が低い。



## 【5班】

- ・高齢化が進んでいるなかで、人と人の繋がりをいかに強くしていくかが重要だと思う。
- ・自主防災の地域エリアは町内会単位で行う。
- ・手上げ方式による町内会の体制づくりに取り組む。
- ・緊急時の弱者支援を考える必要がある。

